近墨道人著

物真似
狂言盡
鸚鵡石
全部冊

第13
3771

千.13
377
3771

序

有性大津名友吉字近黒号葦頭先生者河東新地人以淑人者言真似鳴世若夫隔障使小七聲色則抵子肅然不喰魚汁登樓擬雷子之艶言則妓婦自欲為夕霧有客問曰役者詩真似得可傳乎先生曰易於喰茶漬耳然有法不依法亦得不易客曰愼聞教先生曰夫役者言真似之為法也嬢以諳記狂言譜為要五音清濁之關脣歯喉舌者無論其轂發也在其人名異出處有出於肩上者有出於背後者或有出鼻頂若支體筋骨與聲相顧動通曉此理而後自知

旧
1963
77

一鳳之聲出某處虎宥之音發某處而可驚鬨鷄楚
言出客前曰敢請先生詳擧今世役者之聲僻為我
勿悟於是乎彈箏以呼受取哉盖其次先生應名分
聲說一遍客隨書一小冊子成題鸚鵡石云

明和壬辰春正月　梁山　響谷子誌

物真似
狂言盡　鸚鵡石

近黑道人著

江戸坂京右門　市川才藏

おくゝとつさ出ー歯をくひしめるやうなんぐい口のさきをそのんどう
とーて眉小　ちをもを鼻へつきをぐさぐさ
大きゝる声をぐすぐす声　いふくくひわくゝ
を出をよハ口のくちにて　ぐとうんとの一つのこゑを
又ぐんゝ声をくり上て　ぐーー調子をくり上げて
ゝくゝ

嵐吉三郎

口びるをそろへのんど
よりのつまるあんばい
てびらし声をう
上うんのひゝきにて
声をつゞけべし

嵐山十郎

のんどをうちぐちめ
せさびしひするやうな
しゝて口をすぼめて

藤松三十郎

口のさきにてゝうふとい
ふと上のうぐへ付るやうな
しゝてのんどとさきへつゝ
いでしゝ又口うふの間くゝ
新をうるべしとべし

桜山四良三

口のさきにてゝやうなひ
びらをまゞ口うふの間よ
りそふじやふにしてとつるゝと

あげくく声をおすべし

尾上紋太郎

おつま声をつゞけうふ
ふの間よりアエと口元
びらひをするやうふて
口のとなりふやうふ
して声をつゞけべし

桜山ハードやふにくゝと
器しいひてびとゝふひ
とをまびくやうにべし
いろくく調子上て
ゝふべし

松屋新十良

鼻をつめうふの間よ中の
ぶくく声のまゞつくく声とゝう
ぶくく声と一つおしてうふと
おーづ口をそろへうめて

浅尾爲十良

口をいかめごう声をおしうかりと付又せりふの間しは声をとり又声をしげめるくいふべし

篠塚惣三

口をいかめおく歯で舌をかむやうにしてぎふ声をいだしせりふの間しは鼻の下をのばしてすべし

中村次良三

のんどよりせりをまぜてせりふの間は顔をおとくよせるやうにする又せりふの間はサイナさいふじやうにふるといふてどうど声とせりふと一つにして口ゆへいふなり

杢本友十良

かしぎとあとぬきさむ絲とはまるごゑとごふ声を一つにすゞしくいふなり

芳澤あや免

ずいぶん中るかん声を出し口のさきにてせりふをいふウントいふせりふやサイナトいふせりふの間をいきを下へ引やうにしてせりふをすいぶんやはらかにいふべし

こゝろおしたへ口をいかめとうご声とつぐしせりふとみるふせれだらひとるやうにしていふべし

嵐雛助

のんど鼻とのあうら声を出し鼻へ息のもぬやうにして声出しずいぶんとどうとをますそて眼をつるやうにして調子上ていふべし

姉川千代三

ちうふのあつぐのんどの
うちうちかすかなる声
をいづくすこしゝ下の
まうちふくきやうふして
声ねつぐ　新とう
ていあふし

山風童の井

口のさきにてちうふとひ
とかんとの間ゝ声をつ
隨分ちうふのつるさいろ
ぬをいつぐ

芳澤いちは

のんどかんとおつと一つすまぜ
わすうたゝらぬ調子みく
鼻ゝ息の安めやうふして
ちうふをゝべし

坂田半五郎

口のさきにてちうふとひ
ゝ音ゝをやはみてまうう
とつけてゝゝ声とゝる
へいまゝでちうふして
声をつぐ

尾上新七

刮をまきしゝふかん
ごゝをつゝ口をたい
るがいよあにちうふ間を
むうゝ紛迄ちうふう
して一つゝちうふな
切ていつぐ

市川友蔵

舌の間より声をむし鼻と
ぎうゝんやしておしぜうと
かんどとまぜおくびと付か
ぜうふの事にすしたまう
とまぜらく又口ともをがめ口
のされまそつべし

澤村宗十良

のんどと舌との間より声を
つぶしすのぶんとぞうと

大和山林左ヱ門

そうら眼とつふゆうにしろく
鼻口とところからふしろく
かんどうころ声をつくし
うへ川むひぞぜうふとふ
つべし

嵐藤十良

口とをもがめぜうふをひしるふ
ゆとあ此のんど舌との間より
すのぶん付迄ぜうふまでかんと

んがうろ声の出ぬやう
ゆしそ行もまくぜうふ
をとつべし

坂東満蔵

かんとぞうしをとまぜ舌と
まぜすこし たん声をまぜ
眉にあうあいせ口といがめ
てとのぶんと舌をまぜて
ぜうふとつべし

もとくしませんぞつきあと
ろゆうにして声をとつぶれ
づし

嵐七五良

口をさへくもくしいがめ
のんどよりかんとぞうとあ
うゑと一つにまぜろやうふ
てぞのぶんつくめふて
てうしあうと鼻をはき
出してつべし

山下後五良

口の内にてこもる声を出しせりふの間に引あるうち声と出しども声とこなた声とを一ツにまぜてせりふとやや口にてひびき声ゆく又やや口にてひびきぶんてこんでいふべし

澤村国太良

どへゞんうりとりしきとと声と口をもがもぶんせりふの音いかしせりふの音にかぎちがる声ふして又息(いき)を引声ふしてうちちがる声ふして候そ口そもうしくいふべし

嵐武左衛門

桐嶋(きりしま)茶屋の調子(てうし)めてうたうを付せりふとをませて口をいがめ体(ていぶん)せりふの音によう(やう)とつるゝを引て耳を(きぶら)るよて声をつぐ候べし

姉川みなと

中村喜代三と同じことめてその声はすこしぞう声を出し口をもがもぶんせりふの音

藤川山吾

せりふの音を舌となやうしかんどうく声とおつ声と一ツ中してそのぶんせりふれるくるうるしくと付んでさいふいやうはあうり又天キい付て声とおとどし

さつうけいつてるとつぐもよし

三枡徳次良

かんのて声といふじくらうふれるときいらうしてぞいそんつうりことい ふべし

叶山文七

そもそもこれはこれ
かくとおしるるかみてのんど
のるるこえとこれしてはし
ぢろふのるさいさをのんどく
かるみてぢろふといふる
とはのさいはふとふをと
べし

小川吉右衛門

おもがいつきのまにはのさきぶて

巻門八義

のんどくぢうとはのさきを
しるこえをのまにぢろふのる
よへことをふるしこえ又
ぢろふのるとうぶをてたべ

中ゝ東介

うんごえをいぢくしぢうと
すをもそはのさきをて
ぢろふをいふゆうみしく
はをとそはいぢをてぢろふ

コレハシタリトハヒロフヲ
のんどくちこのさきを二度
てうろうこえをあしかんと
ゆうと一ロよこえをあすべ

市の川表四郎

はをあさきをまきをぶを
つきあしてぢろふのるをて
ぶをあくんりをつきあしの
おをくこうぢうをはのるを
とくすべてい べし

尾文ゆう

はをとそはこまぶをちを
をふくちぶるへあてる
ゆうふしてちをまき
こうりてこえをいをしゆ
こぢろふしてぢろふ
のるを一ロいをこり
ゆうふしていべ

中村岩蔵

しつくゐをかしせりふの
あるところへせりふを
いふてそびとこぞくをか
あんじみてせりふを云
べし

中山新九郎

のんどもむこゑをもち
こゑと一所にてあたゞう
まうと付そびあらみて

市山今蔵

うんごゑとをかしかり
ごゑとませ上がりけり
うらごゑといだすふし
てうらごゑを出すべし

中村新五郎

しつごゑを出しうるを
つけて口のきれてせりふ
をよくとふとをかしむ
うつ入付おもしめましてゆく

せりふといふせりふのあるは
のんどふくんのあるものは
てせりふをいふべし

をかし、せりふといへども
いきづかひをかへてせりふを
いふべし

三桝大五郎

せりふことにせりふとうんを
とこしませ顔をもよくし
ぞくつうをあんじみて
せりふのあるをよくし　ぜりふ
ゆみしくいふべし

坂東岩五郎

ぞうらうごゑといだし
ぜりふをすませ志てみすれ
てことぜりふそ出へ
白といふてせりふと
いふべし

深川仙家
口のさきへそてるやうませ
つぼめていひざうと川と
ざうとまぜてせりふの
ふびは関へ引かんとうこう
とつけてせりふを云べし

中村彩五郎
ざうこゑをきゝしちうこゑ
とかんとまぜるせりふ
てこゑといふべし

山村光藤
ざうごゑにてとくし
んはまぜざうとまぜてせり
ふの首ぎゝくるゝかぜ
て一口く紺色でせりふは
いふべし

中村宗十郎
まじかざんざうこゑを出し
ざうとまぜ口のさきへ
てせりふを云又せりふの

んこゑぐちはせりふを云
べし

中村粂太郎
口のさき見てざうるやう
みしてドくらざうりを
いざしこゑをきゝし
ちうへうけせりふいふ変
まをきゝしおもくるやう
みじかくいふべし

ろうすりていふべし

中村喜代三郎
口をとをがらんのこゑを
いざしてせりふのきらる
ほうしてあのいふじは
いうきそのんどへ引中分て
せりふをこゑぶんへくし
くちとせりふをいうて言ぞ
をきしまそて云べし

姉川大吉

ちんこゑうてどいぶん
きんぞうこゑうてせうふの
ろくいきをのんどんうて
いづべし

佐野川菊妻

ちゑをまきこせうふのろく
ゆきあるやうにうてちう
こゑと入どいぶんせうふの
ろくをげのつゑべし

尾上多賀之丞

のんどにちゑとのろうう
こゑといづべし かんを
まぜてせうふのろくを
うちうと付そをとう
でうとまぜてせう
ふをいづべし

中村十蔵

ひくふへでんとうろうう
うてうんでゑといづべし

尾上多賀之丞

のんどにちゑとのろうう
こゑをいづべし かんを
まぜてせうふのろくを
うちうと付そをとう
でうとまぜてせう
ふをいづべし

中村十蔵

ひくふへでんとうろうう
うてうんでゑといづべし

坂田義平

ちゑをへこゑをいきをのさんうてん

まゆげを二三ケ下ゲして
下はひらとおとし中をぬ
きてたとへはまゆずら
めのやうにすりつくべし

とをくしおつくるなりと
いづくしせうふのみは何事
おしさうといつまれ
してすりふをつべし

大谷友右衛門

まゆふまゆをせめておさ
ろへのんびて右とのつう
うりせうこゑてまさ
ときせうふの事一つ〱切
て付をせうふてつべし

山下次三

目といふめた、さ上へあげ
うらぞらずんとくとと
うりてあくかせせう
ふのつるを出しよつて
いふべし

笠屋又九郎

まつくろにしぜうりと
どをとしかせてどうらん
付をせうふてそらし
くせうふをうべし

山下金作

目とをがめをいぶんを
ゆうしさうんぐるとを
いづしにのされまく
すうふといひ又せうふ

中村野塩

右の上ハおどろうん
のこゑをいづしまゆ
とをとし付まゆしか
てすそをふりかく
ふちとそうこゑまて
ろのふりしてすと
いふべし

中村富十郎

れりのしろとおさん

みおつくしよしとしげき
へうろうみてやり
うとひ又おびまれ
ふいさぐろうふして
やりふといふべし

とおりとのこゝろをとくな
のつまろうみて口の
さたまていさとしこさ
ちくさとまきあんだよ
してやりあといふべし

奴〔やつこ〕 江戸坂京左衛門 俳名 正吉

男ぶりしだけよのまてゝん平非の保昌が弟袴垂
保助幼少よりあらくしく兄が教訓うけれね
くせの十三のとし勘当うけ山賊海賊の中る
まじりのころ承りしくとみでとがあやまんがく
ておりしバ先祖のけがれとぞきよりんとあゝあ
風まちうひ雲をまきまする男の境界ぶくゝ合居かん
おくもござりませぬ

○南一

こてふ　芳沢あやめ　一鳳

そくさんの讃うちをけふが日まで見てくぬへゐんていを見
ぬ讃といひ、そくさんのいまへのとれはまことをこのり
づけ、我をとりくをろくせりのへか上よりあづりあふ。
大鵬和合の一座とぬをきんてあ勇たをかてうち
のくそうぞくをでふ一書をとうげきんとこ一下。
家来がかけつけかくまハ方へ下どとき持ちうげまず
と、かまくしあつて我行自在の一書ふて此中しれ
とけしやう頭にさとひかくし、人まて中きを

いらくすまひなけ、手でくんとよせつけぬ、お常はの
をとうくんとことくだまつふありてもらひくて行
すんかうりんうげふこく武士の目ふをごろさんのやうる
かおがへぬおりひよくぬぎうをふくおつとへ源の後をか
おこていひハそくさんの行会せ、うきしをひそろうんの
うちをひつやうしてくくさんせ

物部平馬　中村治郎之　丸亡

ハくたらく今行をあまゐといつてくじやまいら行
がおもぬ、このわんげハ様縁度まくいりくんまぜひともりで

遊治郎のあくしゃ八はてるさるしゃ
金れんそてんげ五治のうるれまで立てかいてきた
はをやかうんつあもと

花光寺　市川方義　何々

へんげの正神足毛くハはあるくみをこのこの
やうと神仏をうるゆるうるハぬまつてんげ遊治郎
するぬえうハてんげの者のうきもつくきろく五
お彩ひ立だけあをふくうび世ゑ出てはめゑ
うけゑ

唐松姫　芳澤いろは　香蒲

ヱ、うくるちくしゃうがちこのこうこうたるこん
ねをたづひ出し。雞のだんごさしてこげうくとけう
ふふして。都とおうむうてげ。そをにたるこ鶏ねと
うしゅうまくあのまるむじゃでめ。五六六毒蛾ゆるゆる
だぬんじゃのゑ

月関式部　嵐　三十郎　三蝶

いふ小遠育仕らんを申ハでごろうまゆせん。おうしたる

のちは義ハるくたゞ今めぐりのひまゝ
[illegible]「娘とらくちうの[illegible]
上あてゆとゝ段への[illegible]月[illegible]住[illegible]

相愛妻　清尾為十郎　奥山

大ぐりのん鷽のちるゆにあらで我ひりんの
とひとあるゝ人でもゆゝ[illegible]彼の[illegible]父[illegible]
よまうせど[illegible]平の[illegible]
[illegible]あるゝ[illegible]

ひりんのゝ[illegible]
[illegible]合[illegible]
[illegible]の[illegible]
ひるゆゝやゝゝゝあ[illegible]
ゝゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]
[illegible]

出閨門招　松本敦十郎　鬼頭

[illegible]千[illegible]今の[illegible]園我父
[illegible]今[illegible]

沢荒がくるひあそ。嶋田の誠仲よわろがさきを
ころび擬ん今よやむるよし。志のびくよとうと
あ川むるも郎家とわろがさんがあちさあんぜん
とり川で泰人心と合せるハ大屋盛ハあんのつち

はせ八も　姉川千代三

古慰

まうしる本行でもすしまであいれまつ川でわる
さうすア。はものお姫さまといひきづけるまで信ふえ
まけ趣しらんござんをまでお身もおさまるぞれを
さへぬといはいしくきへぬとおまりんせ。けいせいの

あんじてきへぬころさんがくハころハぐちでへある
じへの人

奴ゞ五平　櫻山四良三

南雅

いまうしあるさいぜん京のうちうち志のびめ在おて
木戸の貝人志のぶろてん此ゆゑすと汰とし
こへてわさ雨よ。アんてしとめとくくせりのそ
ろとこうし身どもがそのあうりに発て。アんしれ経
のあさがらとてあふ申しさ中よるとそつく
くじけるやといてくじやるいさ

上ロ　嵐　音乃井　蘭秀

たりのまどをふあぐあまでよりやをとをいて
まいそんどのりもうぐひがのれでひつしへなど
ヨニアきんでみとをとをうーがつとろ。ゆきやを
へかくかをぐこうん出まいぐん

茶道長谷　長松　二十帝　紫浪

ほ後こひやヨうんどつれをんうのをろ敵ま
ちをどのりて　れたのおけ　ありとうを

きまぐひ酒の敵をこうひのちよををこうを。
一門のうぐどちうくぐうくいの世ようん
花咲ぬ一生ひのをを本しうりでちぐうくと
ちうんうりせめて武士ちうくうくせで。
まうくはうんヨ世のヨうひとをぐ一つの紅けけ
をんぐやー

巴波ごぜん　籐　塚物　三　天保　半版

イヤうんた腊人今ちくでもいんをとうとくだやま
ようるへうりのぐめだぐを出てを切てをまを

こだ。アノこうさかるじゃ。ゆめさ成ちの今よし
一ぞえ　都屋へ　ゆづりはのうじゃ　かぞふ。そき今れゆめ
ごさこそそるこもせんぎて見ゆめの人

馬士三吉　嵐　吉三郎　里坂

去年三月十九日のきんのゆこうう流の為びの
のりのをうこしひ。はけ屋敷の宮義へきのでゆ。
江戸の西鬼　廻船の宣命ハ方がぬをこそ
こをあく。かゆをものをいをうくいてハ金ハハ
きしぐ。をもさりのをまこのゆんこやうとそひ

舞子おこそ　嵐　雛子　掘子　そりじゃ人

ひふきんハけりつこも。こうぐきぬハうきでんのかをうれを
ちるげきのあまりかざうをうげらをこやまかしで
りしゆのひ。花山の院くがしこそまうをぞまう
つうるめこそハうしうこれまう二人のかゆて
うぐるもあこ仏武士の法ア源二をつがいうと
うこんをいふこの勅命のかつひでぐう
まをを

○傳授事ゝ

波多野の氏は系図そろくとやうけるかぶつてん
で空らしゆんせそもく波アのちごまろ人園子三ツ
よとゝゝゝかゝ紀ちの新のあんまえをくせうもん
アるめぐくるのちゆ男よ六孫王源りとハ公
の紀人ち佐そ也まりくとゝぐせのぐたち
風ハゝやいさゝて市のうどきゝてゝ十九文
まやの中二ゝいしうるゆ吉よひゝう孫のまてう
ぐゝゝ面川ゝ中よ多ゝと車みをつくゝぐ

かゝ紀紀とゝをのせゝるのゝびづゝふ丹波を紀
ぐこしゝゝぶ武士のうぐゝの家ちゝなゝいのち
おしまゝ大沼のうんしゆうりくハてくしゝちふのゝと
りやかひとたゝくといつゝゝゆゝやせゝうぐやゝう
まんそそゝゝは小町のあのよまてゝおりひゆくを
しゆゆのゝゝゝゝ孫りうがゆんでのゝまゝう
ゝゝゝと二ゝうゝをを西とおりひげゝうゝ紀ゝ
ろゝゝ右のゝゝるとおちくゝの家にうち死ゝを
まひし東ゝ別紀ハ九ゝ方浦ゝちゝハ八ゝ方
ゝゝゝの左沼百ちゝ。ふぶゝの源ゝゝ[illegible]ゝて

うりまするなかでも丸八ハちてとつゞつてひゑ
のやまおろしと云日本一のせうぐんで二ツくて、
さま〳〵お体ハ甚だんとこゝろよしの御手にあんくお
沖のえん二粂の出さりち二えん粂や高銘もれ湯
ぞうふくをしせぞとふれけろうえのけらの
の体まいりさもなやうな親父ものけし銭
こまゆるおゑもつてよしもしいと存つまて
くるハ御評判の心んなさんれば山いまして
おゝうやまいてやを

尾上彩七 俳名 芝翟

はい彩七
でんをかくとめまするのお顔のこともちまして御出
生ましまして山城さまのふうてよの御さいごを取立まして
しが山城さまとおのりなかまする事まて我まゝ久
かたきのいてを二に字屋のおかまつをさせますの八百
人のなくさめしゆろうの出たしねいんぬとうち
みろかしあやかりさ母を主君らしきぞんたくにまでけ
御あんどをいたさせまするあつくおくろばよおぼし
めされませう

うしをけ

沢村宗十郎 曙山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つくうげもこゝろあるまこゝろこゝろごんとぞふぞうと
ぐこゝろんやうれいのこゝろあんなさるとてゝさんせいるア

うゝのと　婦　川　こゝるゝと　一口

もまゝこゝろあんせこゝろの人ぞふのうやうゝもうこゝのこゝ
ひつゝこゝろをぞんがゝりめあやゝりうゝのゝ郎ぞゝうと
こゝうゝとこゝはこゝあんをゝはゝりつゝこゝゝゝうゝのこゝうんぞ
今こゝけぞはこゝこゝふさんはあやゝりうゝのおゝりゝうゝ
とゝあるこゝすゝをぞゝりゝおゝをこゝうゝをゝのゝゝをゝゝゝ
ぞゝうゝこゝこゝふゝとこゝはこゝあんゝをゝのゝゝゝ八ゝ、あやゝりゝ者ゝゝ
おゝゝゝゝんゝのんゝがゝゝふゝゝゝゝてゝはゝおゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おりくちやうがちうにゑるあんをもちてさ
　　義房　嵐　義十郎　呂久
イヤ　ムレイ　ヲのがくらんじつのまそちがうとぞそ
ゐけもどもこきんぐんワ　かつてがそちがふ仕合志
ー　ゑんらくんせつ世とせ　ゑが　ゑ
ぐーんが　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ぜめこぎんやさで　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
　　ゑ

[illegible]

[illegible]　坂田[illegible]

[illegible]

[illegible]